

研究代表者 所属・職：社会福祉学部・教授

氏 名：湯原 悦子

研究課題名：音楽アウトリーチを通じた福祉コミュニティの形成に関する研究

### 研究の概要

本研究は、社会福祉法人むそう職員、プロ音楽家、研究者（湯原）が協働し、当事者（施設利用者やその家族）の意向を反映させた音楽アウトリーチ企画を立案・実行することにより、施設利用者や家族、職員の生活の質向上とともに、障害児や福祉サービスに対する地域住民の理解促進を図ることにより、福祉コミュニティの形成に寄与することを目的とする。

#### ① 研究の対象地域における地域課題ならびに「ふくし」の展開

湯原がプロの音楽家の協力を得、2018 年から県内の福祉施設で行っている音楽アウトリーチ活動は、コロナウイルス感染拡大に伴い余暇活動が激減するなかで、施設利用者やその家族、職員から貴重な楽しみの機会として高い評価を得てきた。

社会福祉施設におけるこの活動は、おしなべて好評であるが、通常は音楽家が考えたプログラムを実施し、施設利用者はそれを鑑賞するという受け身な形を取ることが多い。しかし今回、研究にご協力いただく社会福祉法人むそうにおいては、これまで2年にわたり継続した活動を行うなかで、職員、プロの音楽家、研究者（湯原）が協働して企画を立案する体制を構築することができた。結果として、それぞれの立場から提案を行い、施設利用者およびその家族のニーズに合わせた活動を展開できるまでに至っている。一方で、企画メンバーに福祉施設利用者やその家族が含まれていないこと、活動が地域住民を巻き込んだ形にまでは至っていないこと、初めて音楽アウトリーチ企画を実施したいと思っても地域の音楽家とどのように協働できるかよく分からないことなどが課題としてあげられる。

#### ② 研究の準備状況およびこれまでの研究成果

2022 年度に行った3回の音楽アウトリーチ企画は利用者、ご家族、施設職員それぞれに効果をもたらすものであった。利用者に対しては、イキイキと楽しむ機会の得た、自分が輝き賞賛を得られる場ができた、次の機会を楽しみに待ち準備する経験を得たなど、生活の質の向上を示す効果が確認できた。家族に対しては、家族で安心して出かけることができる場を得た、企画を通じて本人の新たな一面を知ることができた、音楽家に関心を持つなど自分自身の楽しみを見出すことができたなど幅広い効果が確認できた。施設職員に対しては、利用者理解&ご家族理解が進んだ、日々の疲れの癒やしの場となった、企画立案の過程で組織としてのチーム力がアップしたなど、福祉施設職員としての力量の向上につながる効果が確認された。そして音楽家からは、企画を継続して行えたことで、一方的に音楽を提供するのではなく、職員と交流しながら企画を創りあげていったことへのやりがいや、自身の音楽家としての成長が語られた。

これまでの活動に対する研究成果については、2021 年の日本老年社会科学会第 63 回全国大会においてポスター発表（石川貴憲、湯原悦子、生田創、黒野雅直、齋藤あい「コロナ禍における社会福祉施設を対象にした音楽活動の効果」）を行った。また、湯原、石川（プロ音楽家）の共著で、本学の紀要にて論文発表（湯原悦子、石川貴憲（2022）「社会福祉領域における音楽アウトリーチの効果に関する探索的研究」日本福祉大学社会福祉論集 147, 59-80）を行い、関係者に配付した。

### ③ 研究の推進によって期待される研究成果

本研究を実施することにより、次の3点の研究成果が期待できる。

- a. 音楽アウトリーチ企画を通じた障害児者支援について、利用者および家族の QOL 向上、支援の質向上の視点からの効果検証
- b. 施設の近隣に住む住民を音楽アウトリーチ企画に招待し、実際に参加してもらうことで、彼らの障害児者理解、福祉サービス理解がどのように進むのかについての探索的な検証
- c. 今まで音楽アウトリーチ活動を実施したことがない施設でもスムーズに企画立案、実施ができるよう、音楽家との協働の仕方や実施にあたっての注意点についてまとめた活動実施マニュアルの作成

#### 達成状況・成果内容

##### 1. 企画立案

年度内の音楽会企画は3回とし、形式はこれまでの実践を踏まえ、3部形式にすることにした。1部は「プロの演奏を聴こう！」で、利用者と家族がともに、安心して質の高い演奏を楽しめることを重視した。2部は「プロの音楽家とコラボしよう」で、利用者やご家族が歌やダンス、楽器などを音楽家演奏共に披露し、輝ける場づくりとした。3部は「ダンスや楽器で一緒に参加しよう」で、皆で歌ったり踊ったりした。このコーナーは非常に好評で、毎回、会場全体で大きく盛り上がり、楽しむことができた。

2023年度に行った工夫として、第2部にリクエストコーナーを新設した。これは「前に出て歌ったり踊ったりするのは恥ずかしいけど、自分の思い出の曲を演奏してくれたらとても嬉しい…」という要望に応えるものである。

例：スピッツの「チェリー」をリクエストした利用者のお母様

##### 2. 研究結果

今回の音楽アウトリーチ企画について、どのような効果があったのかを次の3点から確認した。

- 1) 音楽アウトリーチ企画を通じた障害児者支援について、利用者および家族の QOL 向上、支援の質向上の視点からの効果検証
- 2) 施設の近隣に住む住民を音楽アウトリーチ企画に招待し、実際に参加してもらうことで、彼らの障害児者理解、福祉サービス理解がどのように進むのかについての探索的な検証
- 3) 今まで音楽アウトリーチ活動を実施したことがない施設でもスムーズに企画立案、実施ができるよう、音楽家との協働の仕方や実施にあたっての注意点についてまとめた活動実施マニュアルの作成

- 1) 音楽アウトリーチ企画を通じた障害児者支援について、利用者および家族の QOL 向上、支援の質向上の視点からの効果検証

##### ①利用者&家族 グループインタビュー

対象：利用者2名、家族6名（全員が2回以上の参加経験者）。

Q1. あなたにとっての音楽会は？

全員から口々に「楽しみ、癒し」という回答。とても心地よく温かい場、ストレス発散できる、なくなると寂しい、定期的にやってほしいとの希望が出た。

その他、次のような指摘もなされた。

- ・いろいろな方と知り合えるチャンス、社会とのつながりを持てる
- ・音楽家が利用者のよさを引き出してしてくれる、障害のある方への対応も手馴れてきて理解が深まっているようだ
- ・定期的に開催してほしい、3カ月に1度くらいがよい

<音楽会の様子>



② 運営担当者 ZOOM インタビュー

- ・ご家族が普段、利用者にごどう接しているのかを知るチャンスとなる企画を通じてあまり会えない父親やごきょうだいとも出会える  
その結果、後日の自然なコミュニケーションが可能になる

<職員の方々が利用者のパフォーマンスを全力で応援！！>



## 2) 地域の人々の障害児者理解、福祉サービス理解の促進

むそう様の担当者が相次ぎ変更になり、引継ぎに余裕がなく、地域の人々にお声がけすることは断念した。

だが、第1回には、日本福祉大学社会福祉学部生がボランティアで参加し、「こういう活動もあるなんて知らなかったです。私自身楽しかったですし、支援への理解が深まりました！」という声が聞かれた。

また、第3回には、会場となった店舗に買い物に来られた方が飛び入り参加し「Yoasobi のアイドル (演奏) の質の高さに驚きました！」という感想を述べていた。むそうの売り上げとイメージアップに貢献できたのかもしれない。

## 3) 音楽家との協働の仕方や実施にあたっての注意点についてまとめた活動実施マニュアルの作成

### ・実施にあたっての注意点

職員のシフトを調整する必要がある。2023 年度は土、日に開催したため、職種によっては出勤日の振り替えが必要になり、困難が生じることもある。

開催の頻度、曜日や時間は、目的によって変わってくる。実施前にこの音楽会で何を得たいのかを確認し、その目的に沿った運営を考えることが重要である。

### ・活動実施マニュアル

事前に考えておくべきことを確認した。

## 3. 研究結果のまとめ

### 1) 利用者および家族の QOL 向上、支援の質向上

参加者アンケートではほぼ 100%が「よかった」であった。これまでの2年間と同様に、利用者・家族・職員から高い支持を得、それぞれにとってかけがえのないものになっていることが分かる。

### 2) 地域の人々の障害児者理解、福祉サービス理解の促進

音楽会企画は福祉関係者以外の人々が施設や利用者について理解を深めるきっかけになり得る。効果については職員負担との兼ね合いで考えていかねばならない。

### 3) 活動実施マニュアルの作成

当日の流れ、アーティスト対応、職員の役割分担、席と駐車場の割り振りを事前に定めておくことが重要である。

<音楽会会場>



一般の方も買い物に訪れるため、飛び入り参加もOKにしておけば、法人の活動について理解を深めてもらえたり、純粹に楽しんでもらえたり、イメージアップにつながる可能性がある。

<職員の皆様が作成した案内の看板>



温かく迎えて入れていただいたという雰囲気を感じる